



清涼飲料水の輸出

- 2020年の輸出数量・金額は過去最高
- 港別では大阪港のシェアが全国トップ
- 中国向けの輸出が急増しシェアNO.1

世界が注目する日本の清涼飲料水

近年、我が国は食品・農林水産物の輸出拡大に注力しています。令和2年3月、政府は2025年までに2兆円という輸出額目標を設定し、年々輸出が増加している清涼飲料水を輸出重点品目として選定しました。

世界へ輸出される清涼飲料水は、スポーツドリンク、缶コーヒーや豆乳など種類が豊富です。最近では、健康志向の高まりからビネガードリンク（お酢に果汁などを加えた飲料）やフレーバーウォーター（ミネラルウォーターに果汁などを加えた飲料）などの人気が高まっています。

本特集では、近年世界に注目されている我が国の清涼飲料水の輸出動向についてご紹介いたします。

（注）本特集における清涼飲料水は、輸出統計品目番号2202項「水（鉱水及び炭酸水を含むものとし、砂糖その他の甘味料又は香味料を加えたものに限る。）その他のアルコールを含有しない飲料（第20.09項の果実又は野菜のジュースを除く。）」に分類されるものを集計しています。

本特集における清涼飲料水に含むもの



●炭酸飲料

コーラ
ラムネ
サイダー



●茶系飲料

緑茶飲料
紅茶飲料
ウーロン茶飲料



●スポーツ飲料



●その他

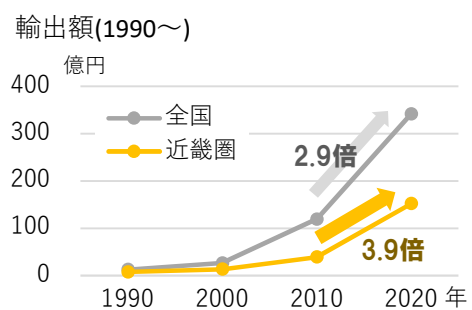
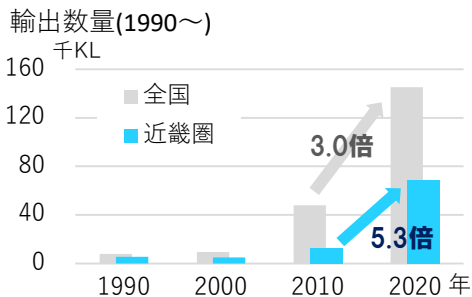
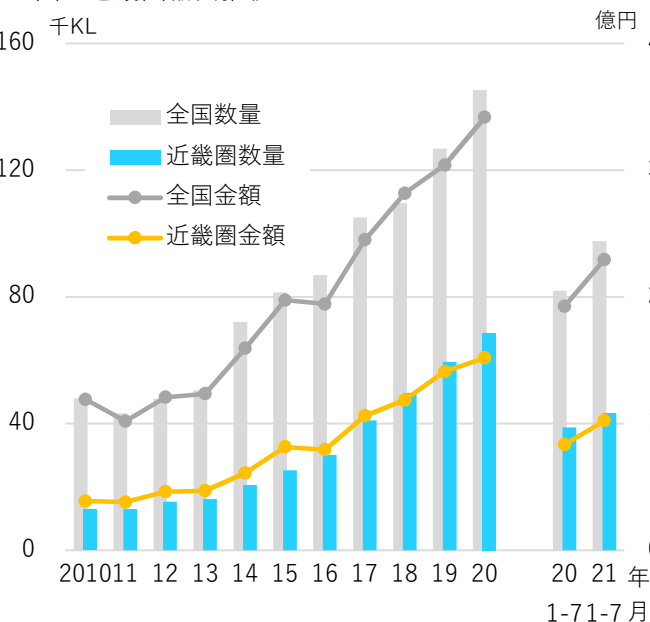
豆乳
コーヒー飲料
エナジードリンク

等

※本特集における清涼飲料水に含まないもの
ミネラルウォーター 炭酸水 アルコール分0.5%を超える飲料
果実又は野菜のジュース 医薬品に該当する飲料 等

輸出推移

全国・近畿圏輸出推移



2020年の輸出数量・金額は過去最高

2020年の輸出数量は全国が145,238キロリットル、近畿圏が68,702キロリットル、輸出額は全国が342億円、近畿圏が152億円となり、いずれも過去最高を記録しました。

輸出額の推移を見ると、全国・近畿圏ともに4年連続過去最高を更新しています。さらに2021年1-7月は全国が229億円(前年同期比19.1%増)、近畿圏が102億円(同22.7%増)となり、前年を上回るペースです。

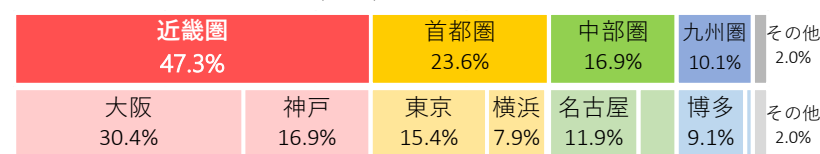
近年、訪日外国人増加により日本製品の魅力が海外へ広まったことが増加の要因となっています。また、2020年以降はコロナ禍で巣ごもり需要が大きく、現地スーパー向けの輸出が大きく増加しているようです。

近畿圏の輸出数量は10年前と比較して5.3倍の伸び

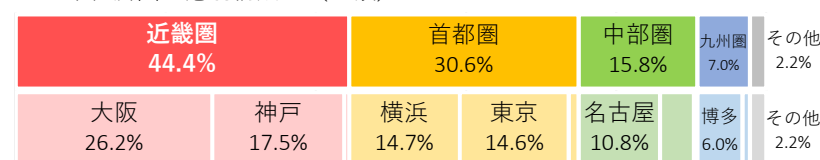
2020年と10年前(2010年)を比較すると、近畿圏の数量は5.3倍、金額は3.9倍となっており、全国の数量3.0倍、金額2.9倍よりも高い伸びを示しています。

経済圏・港別動向

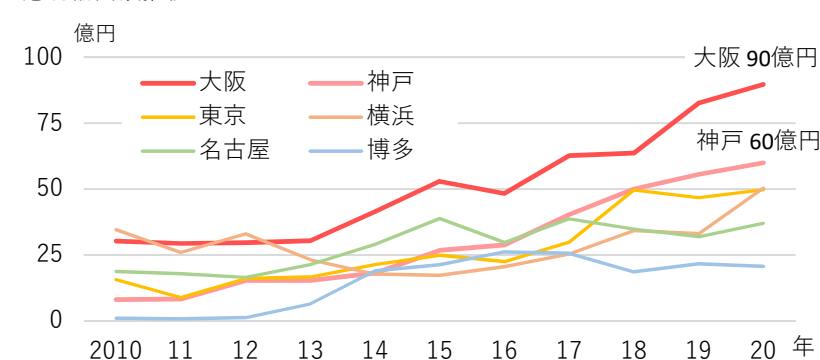
2020年経済圏・港別構成比(数量)



2020年経済圏・港別構成比(金額)



港別輸出額推移

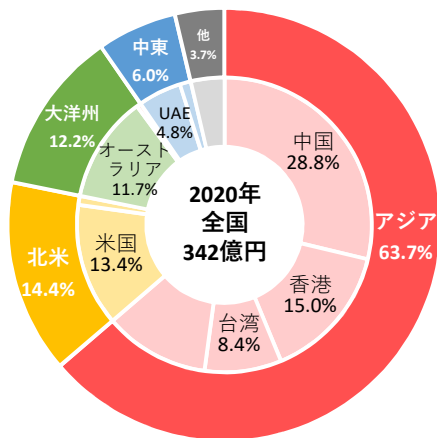


近畿圏の輸出は全国の4割以上を占めシェア第1位

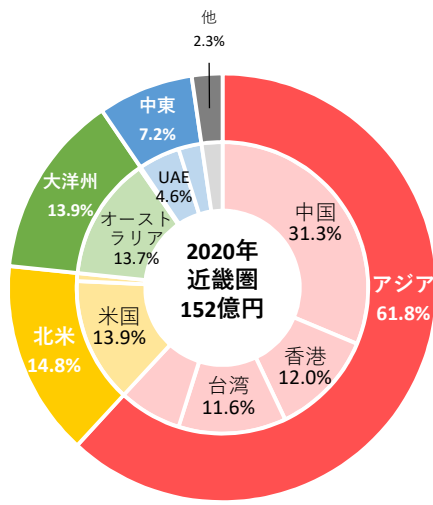
2020年の経済圏別構成比を見ると、近畿圏が数量47.3%、金額44.4%を占め、全国シェア第1位となっています。港別では、大阪港が数量44,139キロリットル(全国比30.4%)、金額90億円(同26.2%)となり、輸出額推移を見ると2013年以降連続して全国シェア第1位となっています。

近畿圏の輸出が多い要因は、仕向先のメインであるアジア圏の国と近いこと、輸送コスト・時間が抑えられること、清涼飲料水の生産拠点が近畿圏に多いこと等が挙げられるようです。

地域・仕向地別の動向

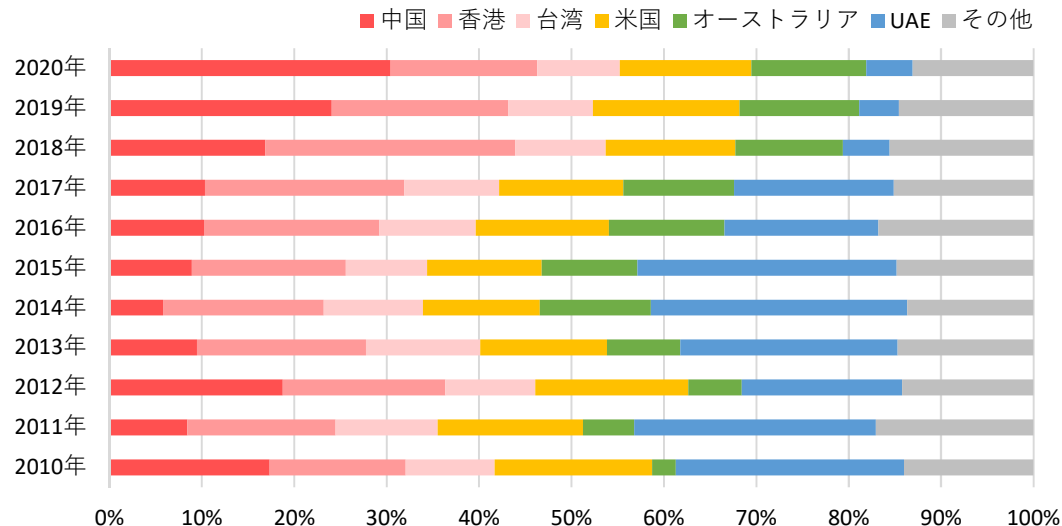


2020年仕向地別金額 (全国)



2020年仕向地別金額 (近畿圏)

仕向地別構成比推移 (全国)



2020年中国向けの輸出が第1位

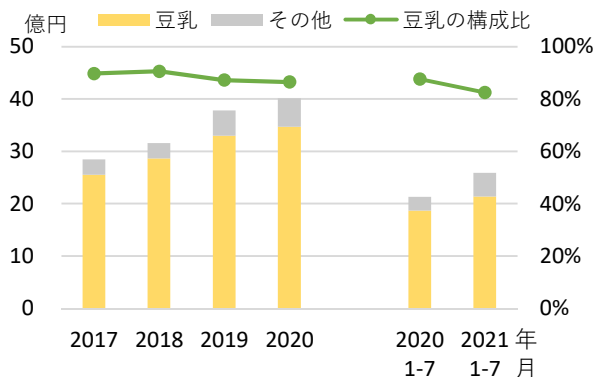
2020年の地域別輸出額を見ると、全国・近畿圏ともにアジアが6割以上を占め、仕向地別では中国が第1位となっています。これはアジア圏の消費者の所得が向上し、安全性・品質面で信頼の高い日本製品が求められていることが要因のひとつです。

全国の仕向地別構成比の推移を見ると、2015年まではアラブ首長国連邦(UAE)が1位でしたが、2016年香港が上回り、現在は急増した中国が2019年以降2年連続で1位となっています。近年中国では回転寿司チェーン店が急速に店舗数を増やしており、日本製飲料が消費される機会が増加しているようです。



仕向地別の特色

オーストラリア向け清涼飲料水の輸出額推移



オーストラリアでは豆乳が人気

オーストラリア向けの清涼飲料水は8割以上が豆乳です。豆乳の輸出は、植物性食品への関心の高まりから年々増加し、2020年の輸出額は35億円となりました。

日本産の豆乳は大豆特有の臭みが少ないことから、オーストラリアではコーヒーに注いでソイラテにするなど、牛乳の代わりとして幅広く使われているようです。

おわりに

2021年1月から7月までの清涼飲料水の輸出は、前年を上回るペースとなっています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出自粛や在宅時間の増加により飲用スタイルが変化し、家庭内での消費が増加しました。また、日本の清涼飲料水はデザインやフレーバーの種類が豊富で、飽きが来ないことが大きな魅力のようです。

業界によると、今後は消費者人口の多いアジア・北米・大洋州等の既存市場に注力し、さらに新たな地域・国へ輸出を拡大していきたいとのことです。

データ集 (単位 数量：キロリットル、金額：百万円)

輸出推移

年	全国				近畿圏			
	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比
1990	7,891	104.1%	1,254	114.7%	5,691	103.2%	767	113.1%
2000	9,643	81.2%	2,650	98.4%	4,915	67.2%	1,330	82.9%
2010	47,971	114.7%	11,909	118.1%	12,901	112.1%	3,888	109.3%
2011	43,253	90.2%	10,193	85.6%	13,095	101.5%	3,812	98.1%
2012	47,877	110.7%	12,074	118.5%	15,326	117.0%	4,627	121.4%
2013	50,555	105.6%	12,353	102.3%	16,208	105.8%	4,713	101.9%
2014	72,136	142.7%	15,937	129.0%	20,634	127.3%	6,092	129.3%
2015	81,432	112.9%	19,738	123.8%	25,237	122.3%	8,158	133.9%
2016	86,860	106.7%	19,431	98.4%	30,131	119.4%	7,936	97.3%
2017	104,979	120.9%	24,505	126.1%	41,009	136.1%	10,616	133.8%
2018	109,560	104.4%	28,167	114.9%	49,720	121.2%	11,858	111.7%
2019	126,747	115.7%	30,391	107.9%	59,446	119.6%	14,107	119.0%
2020	145,238	114.6%	34,164	112.4%	68,702	115.6%	15,183	107.6%
2020 1-7月	81,905	109.9%	19,250	108.0%	38,761	108.9%	8,339	100.0%
2021 1-7月	97,596	119.2%	22,935	119.1%	43,349	111.8%	10,236	122.7%

○2021年（令和3年）1-7月分は確報値、2020年（令和2年）は確々報値、それ以前は確定値となります。

○2020年1-7月及び2021年1-7月の前年比は、前年1-7月の数量または金額との比較となります。

○過去最高は1988年1月以降のデータを比較したものです。

○本特集における各経済圏は以下の都府県を含むものになります。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

中部圏：愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県

九州圏：福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県

○港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したことになります。

2020年経済圏・港別構成比

経済圏・港	数量	全国比	金額	全国比
近畿圏	68,702	47.3%	15,183	44.4%
大阪港	44,139	30.4%	8,960	26.2%
神戸港	24,500	16.9%	5,994	17.5%
その他	63	0.0%	228	0.7%
首都圏	34,344	23.6%	10,449	30.6%
東京港	22,392	15.4%	4,973	14.6%
横浜港	11,463	7.9%	5,030	14.7%
その他	489	0.3%	446	1.3%
中部圏	24,592	16.9%	5,396	15.8%
名古屋港	17,222	11.9%	3,704	10.8%
その他	7,371	5.1%	1,692	5.0%
九州圏	14,630	10.1%	2,399	7.0%
博多港	13,186	9.1%	2,061	6.0%
その他	1,444	1.0%	339	1.0%
その他	2,970	2.0%	737	2.2%

港別 輸出額推移

年	大阪港	神戸港	東京港	横浜港	名古屋港	博多港
2010	3,027	806	1,565	3,458	1,867	93
2011	2,931	823	884	2,593	1,786	75
2012	2,963	1,530	1,604	3,298	1,644	126
2013	3,037	1,532	1,662	2,323	2,133	647
2014	4,143	1,808	2,138	1,767	2,901	1,900
2015	5,294	2,675	2,491	1,727	3,878	2,123
2016	4,826	2,880	2,243	2,049	2,970	2,614
2017	6,255	4,025	2,985	2,540	3,874	2,567
2018	6,358	5,004	4,966	3,420	3,484	1,861
2019	8,257	5,556	4,669	3,300	3,189	2,157
2020	8,960	5,994	4,973	5,030	3,704	2,061

2020年仕向地別輸出額

全国			近畿圏	
地理圏・国	金額	構成比	金額	構成比
アジア	21,768	63.7%	9,390	61.8%
中国	9,825	28.8%	4,748	31.3%
香港	5,114	15.0%	1,815	12.0%
台湾	2,882	8.4%	1,767	11.6%
その他	3,947	11.6%	1,060	7.0%
北米	4,935	14.4%	2,244	14.8%
米国	4,594	13.4%	2,111	13.9%
その他	341	1.0%	133	0.9%
大洋州	4,167	12.2%	2,107	13.9%
オーストラリア	4,011	11.7%	2,081	13.7%
その他	156	0.5%	26	0.2%
中東	2,038	6.0%	1,093	7.2%
アラブ首長国連邦	1,627	4.8%	701	4.6%
その他	411	1.2%	391	2.6%
その他	1,256	3.7%	348	2.3%

仕向地別 輸出額推移（全国）

年	中国		香港		台湾		米国		オーストラリア		アラブ首長国連邦	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
2010	2,061	17.3%	1,743	14.6%	1,145	9.6%	2,022	17.0%	303	2.5%	2,934	24.6%
2011	860	8.4%	1,633	16.0%	1,124	11.0%	1,600	15.7%	563	5.5%	2,660	26.1%
2012	2,262	18.7%	2,123	17.6%	1,174	9.7%	1,995	16.5%	700	5.8%	2,092	17.3%
2013	1,166	9.4%	2,252	18.2%	1,519	12.3%	1,688	13.7%	975	7.9%	2,891	23.4%
2014	913	5.7%	2,721	17.1%	1,684	10.6%	1,978	12.4%	1,883	11.8%	4,343	27.3%
2015	1,724	8.7%	3,207	16.3%	1,692	8.6%	2,395	12.1%	1,993	10.1%	5,405	27.4%
2016	1,931	9.9%	3,571	18.4%	1,960	10.1%	2,711	14.0%	2,358	12.1%	3,133	16.1%
2017	2,459	10.0%	5,122	20.9%	2,431	9.9%	3,193	13.0%	2,845	11.6%	4,097	16.7%
2018	4,571	16.2%	7,347	26.1%	2,656	9.4%	3,800	13.5%	3,160	11.2%	1,371	4.9%
2019	7,031	23.1%	5,594	18.4%	2,669	8.8%	4,641	15.3%	3,781	12.4%	1,251	4.1%
2020	9,825	28.8%	5,114	15.0%	2,882	8.4%	4,594	13.4%	4,011	11.7%	1,627	4.8%

オーストラリア向け 輸出額推移（全国）

年	清涼飲料水	うち豆乳		
	金額	金額	前年比	構成比(※)
2017	2,845	2,555	—	89.8%
2018	3,160	2,863	112.1%	90.6%
2019	3,781	3,300	115.3%	87.3%
2020	4,011	3,471	105.2%	86.5%
2020 1-7月	2,130	1,867	93.0%	87.6%
2021 1-7月	2,588	2,135	114.4%	82.5%

(注) 本特集における豆乳は、輸出統計品目番号 2202.99-010に分類されるものを集計しています。

※オーストラリア向け清涼飲料水のうち豆乳の割合

※本資料を他に転載するときは大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします（電話06-6966-5385）

大阪税関ホームページ

<https://www.customs.go.jp/osaka/>